



栃木市立大平東小学校
学校だより 第4号
令和7年7月9日
校長 新村 真



日々の学校の様子や行事予定をホームページに掲載しています。ご覧ください。



【学校の教育目標】 かしこく なかよく たくましく

せきはん た よろこ

それは、お赤飯を炊いて喜ぶほど、すばらしいこと

5月号で「たくましく」、6月号で「なかよく」について述べました。

今回は、教育目標の第一項「かしこく」についてお話しします。

「かしこく」とは、具体的には「学び方を身に付け、主体的に学ぶ子」を育てることです。

「学び方」とは「学習の方法」「勉強のやり方」のことです。

「学習の方法を教えて、身に付けさせる」ことが大変重要だと考えています。

魚を1匹取ってあげるより、魚の上手な取り方を教え、それを身に付けさせることの方が重要であると言えば分かりやすいでしょうか。

昨年度の学校だより5月号に漢字の練習を例にご説明いたしましたので、お時間のある方は学校ホームページ【おたより】でご確認ください。

今年は、算数を例にしてお話ししたいと思います。

「問題の解き方を教える」ことも大切ですが、実は、それ以前にもっと大切なことがあります。

まずは、「ノートの書き方」です。

特に大切なことが「筆算の横線や図や表をかく時に、必ず定規を用いる」ということです。

定規を使って線が引けるということは、物事についていねいに取り組めることにつながります。

算数で定規を使いこなせるようになるには、半年ほどかかりますが、これだけでもテストの点は10点アップすると言われています。うつかりミスの多くは、位取りのまちがいによるものですが、定規を手の一部のように使いこなせるようになると、このミスを防ぐことができます。

お子さん（2年生以上）の算数のノートをご確認ください。筆算の線を引くときに定規を使っているようであれば、それは、お赤飯を炊いて喜ぶほど、すばらしいことです。

できてないからといって、お子さんを責める必要はありません。定規を使うことは、目的ではなく、ノートをていねいに書き、位取りのまちがい等のミスを防ぐための一つの方法だからです。

各クラス（2年生以上）でも子供の実態等に応じた声かけや指導をしております。学校でも、粘り強く指導していきますが、ご家庭でも励ましていただけますとありがたいです。

私は、10cmほどのミニ定規を使わせていました。小回りがきいて使いやすいからです。15cm定規を半分にして使用

定規を使った筆算	定規を使わなかった筆算



授業中にたし算の筆算の横線を定規で引く2年生

⑥ 14 7) 98 — 28 28 0	⑦ 46 8) 368 — 32 48 48 0
-------------------------------------	--

わり算の筆算の横線をすべて定規で引いている自主学習ノート。ここまでくると習慣化されていると言える。

していた子もいました。分数の線はもちろんですが、イコール (=) までミニ定規を使って引く子もいました。有名附属小学校では、60年も前から、この「ミニ定規」使用を指導していたそうです。

一人1台のタブレットが整備されている時代ですが、ノートに書く活動は大切にしていきたいと思います。

このようなことは、一度や二度言ったくらいでは、身につきません。半年や1年と長い年月がかかります。しかし、習慣が身につければ、これから学習にきっと役に立つと思います。

ほいく 「歩育」という言葉をご存じですか？

6月に行われた「児童の安全を見守る意見交換会」において、参加者（自治会長）の方から、「車の送迎が増え、歩いて登下校する子供が減ってきてるので、学校だよりで啓発してはどうか。」というご意見をいただきました。

歩育とは「歩いて、自然や社会に触れ、五感を開き体で学ぶ直接体験を通じて、子どもたちの豊な心、生きる力を育てる」基礎教育であるといわれています。小学生にとっていえば、文字通り歩く教育であり、「登下校は自分の足で歩きましょう」ということです。ご理解・ご協力をお願いいたします。

【歩いて登下校することのメリット】

1 脚力・体力がつき、食欲も出ます。質の良い睡眠につながります。

片道1kmを歩くとしたら1日で2km。それを1年間続けたら400km、6年間で2400km。歩くだけで、自然と体力が備わります。歩けば自然とお腹も空きます。

2 自然と忍耐力・持久力が備わります。

3 感性が育ちます。

咲いている草花、肌にあたる風…、四季の移り変わりを感じることができます。

4 歩くというリズム運動は、脳内物質「セロトニン」の分泌を促します。心身の健康に良い影響。

5 自立心を育成します。

自分で考え、自分で判断し、自分の足で歩くことで、自立心を育むことができます。少しづつ、親の手を離れ、一人で行動する練習をすることで、自信につながります。

◆今回は5年生児童の作文をご紹介いたします。「小さな親切」作文コンクールで書いた作文の一部です。（原文のまま）

（前略）最近の学校だよりの「東山」で、「あいさつができる子に」という内容の記事を見ました。「あいさつ」は相手に心を開くことであり、「返事」は相手を受け入れることと書いてありました。よくわからなかつたので、父と母に聞いてみました。父は「相手に心を開くとは、仲良くなりたい気持ちを伝えることだよ。」と言っていました。そして、「相手を受け入れるということは、あいさつをてくれた人の気持ちにこたえることだよ。」と言っていました。「だから、友達やまわりの人達と仲良くなりたいときは、自分からあいさつをすることがとても大切なんだよ。」とも言っていました。（後略）

【校長より】学校だより「東山」は主に保護者や地域の方に向けて書いています。子供が読むことは想定していなかったので、大変うれしく思います。しかも、内容について親に質問したり、家庭で話し合ったりしています。ここまでしてもらえると、書いた甲斐（かい）があるなあと思います。これからも少しでも価値ある「東山」を書いていこうと、5年生の子に励ました。ありがとうございます。

私からの一方向ではなく、双方向になればよいと思っております。「学校だより」やホームページ等へのご感想・ご意見をお寄せいただけるとありがとうございます。

